

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和元年6月27日現在

機関番号：32204

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K04461

研究課題名(和文) 小学校・中学校国語科における学習用語の選定と活用方法の開発

研究課題名(英文) Development of the selection and use method of Japanese language learning terms in elementary and junior high schools

研究代表者

工藤 哲夫 (Kudo, Tetsuo)

白鷗大学・教育学部・教授

研究者番号：10581605

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：平成27年版小学校国語科全教科書、平成28年版中学校国語科全教科書、平成20年版の『小学校学習指導要領』・『小学校学習指導要領解説国語編』・『中学校学習指導要領』・『中学校学習指導要領解説国語編』及び平成29年版の『小学校学習指導要領』・『小学校学習指導要領解説国語編』・『中学校学習指導要領』・『中学校学習指導要領解説国語編』における「国語科学習用語」の使用頻度調査を行い、学習用語選定の基礎資料とした。学習用語、128語を選定し、解説をした。また、代表的な学習用語15個について、学習用語を有効に使う授業15実践を行った。これらに関して、冊子にまとめた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

学習指導要領では、アクティブ・ラーニングの重視、問題解決型学習の再評価が行われている。これは全て、子供が一人一人、それぞれの興味に基づいて主体的にまた、協働的に課題解決型の学習を進めていくという方向が求められている。このような中で、小学校・中学校の国語科教科書においても「学習用語」が少しずつ示されるようになった。本研究では、多くの「学習用語」を示し、現場の教員が取捨選択し、学習指導に活用できるとともに、児童・生徒に明示し、児童・生徒が「学習用語」を用いて、主体的な学習できるようにした。

研究成果の概要(英文)：All Japanese language learning textbooks in the 2015 edition of elementary school, all Japanese language learning textbooks in the 2016 edition of junior high school, "Elementary School course of study" in 2008 and 2017, "Junior High School Learning Guidelines" in 2008 and 2017, "Junior High School course of study" in 2008 and 2017, "Elementary School Learning Guidelines" in 2008 and 2017, We conducted a survey on the frequency of use of "Japanese language learning terminology", and selected the basic materials for selection of learning terms. A study term, 128 words were selected and explained. In addition, fifteen of the typical learning terms were practiced in class 15 which used the learning terminology effectively. These are summarized in the booklet.

研究分野：国語教育

キーワード：学習用語 学習指導要領

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

(1) 文部省や国立国語研究所の基本語彙調査や『国語教育指導用語辞典』(1984, 教育出版)など指導者の側に立った、指導者に役立つ調査報告・図書などは数多く出ている。『国語教育指導用語辞典』などは第4版となって今も多くの教員・研究所によって利用されている。しかし、「学習用語」については、教科書に少しずつ取り入れられるようになってきたが、研究はようやく緒に就いた状態である。

(2) 学習指導要領では、言語活動の重視、問題解決型学習の再評価が行われている。これは全て、子供が一人一人、それぞれの興味に基づいて自主的に課題解決型の学習を進めていくという方向が求められている。自主的な学習時においても、学習を支える「学習用語」を学習者に持たせる必要がある。

### 2. 研究の目的

(1) 小学校・中学校の国語科においても「学習用語」の選定を行う。国際バカロレア機構では少ないながらも必ず「学習用語」を示しているが、本研究では、多くの「学習用語」を示し、現場の教員が取捨選択できるように便宜を図りたい。そのことにより、小学生・中学生の主体的な問題解決型の学習の支援を目指す。

(2) 小学校・中学校の国語科における「学習用語」の活用法の開発を行う。「学習用語」を指導者はどのような場面で有効に使うことができるのか、学習者はどのような場面で「学習用語」を使うことでより主体的な学習できるのか、実践を通して提案する。

### 3. 研究の方法

(1) 平成27年版小学校国語科全教科書、平成28年版中学校国語科全教科書、平成20年版の『小学校学習指導要領』・『小学校学習指導要領解説国語編』・『中学校学習指導要領』・『中学校学習指導要領解説国語編』及び平成29年版の『小学校学習指導要領』・『小学校学習指導要領解説国語編』・『中学校学習指導要領』・『中学校学習指導要領解説国語編』における「国語科学習用語」の使用頻度調査を行い、学習用語選定の基礎資料とした。

(2) 学習用語、132語を選定し、解説をした。

(3) 代表的な学習用語15個について、学習用語を有効に使う授業15実践を行った。

(4) (1)(2)(3)に関して、授業実践資料として冊子にまとめた。

### 4. 研究成果

#### (1) 学習用語の収集

平成27年版小学校国語科全教科書、平成28年版中学校国語科全教科書、平成20年版の『小学校学習指導要領』・『小学校学習指導要領解説国語編』・『中学校学習指導要領』・『中学校学習指導要領解説国語編』及び平成29年版の『小学校学習指導要領』・『小学校学習指導要領解説国語編』・『中学校学習指導要領』・『中学校学習指導要領解説国語編』における「国語科学習用語」の使用頻度調査を行った。

まず、教科書及び学習指導要領解説における学習用語の延べ抽出数を示す。

表1 教科書、学習指導要領等における学習用語の延べ抽出数

文献	延べ抽出数
平成27年版小学校 学校図書版教科書6学年分	2,609
平成27年版小学校 教育出版版教科書6学年分	2,251
平成27年版小学校 三省堂版教科書6学年分	2,040
平成27年版小学校 東京書籍版教科書6学年分	2,288
平成27年版小学校 光村図書版教科書6学年分	2,578
平成28年版中学校 学校図書版教科書3学年分	1,842
平成28年版中学校 教育出版版教科書3学年分	1,553
平成28年版中学校 三省堂版教科書3学年分	1,843
平成28年版中学校 東京書籍版教科書3学年分	1,417
平成28年版中学校 光村図書版教科書3学年分	1,776
平成20年版小学校学習指導要領解説国語編	2,742
平成20年版中学校学習指導要領解説国語編	1,718
平成29年版小学校学習指導要領解説国語編	5,132
平成29年版中学校学習指導要領解説国語編	4,780
合計	34,569

学習用語は、平成 29 年版学習指導要領の国語の分類に合わせて、A（話すこと・聞くこと）B（書くこと）C1（読むこと 文学）C2（読むこと 説明文）D1（言語文化）D2（言葉の特徴や使い方）E（情報の扱い方）に分類した。尚必要に応じて、同じ語を複数の領域で、数えている。なお、平成 20 年版学習指導要領の国語には E（情報の扱い方）の分類がないので、平成 20 年版小学校学習指導要領解説国語編及び平成 20 年版中学校学習指導要領解説国語編では、E（情報の扱い方）に関する学習用語の抽出は行わなかった。分類別の延べ抽出数を示す。

表 2 教科書、学習指導要領等における学習用語の分類別の延べ抽出数

		平成 27 年版小学校教科書	平成 28 年版中学校教科書	平成 20 年版小学校学習指導要領解説国語編	平成 20 年版中学校学習指導要領解説国語編	平成 29 年版小学校学習指導要領解説国語編	平成 29 年版中学校学習指導要領解説国語編
A	話すこと・聞くこと	3,170	1,074	640	368	1,026	1,046
B	書くこと	3,933	1,763	844	522	1,465	1,279
C1	読むこと（文学）	2,906	1,405	652	433	981	1,095
C2	読むこと（説明文）	2,459	872	657	434	941	1,138
D1	言語文化	895	868	287	184	799	691
D2	言葉の特徴や使い方	1,511	3,062	519	371	1680	1,075
E	情報の扱い方	236	635	カウントせず	カウントせず	634	1,125

平成 27 年版小学校国語科全教科書及び平成 28 年版中学校国語科全教科書は、平成 20 年版『小学校学習指導要領』・『小学校学習指導要領解説国語編』・『中学校学習指導要領』・『中学校学習指導要領解説国語編』に基づいて編集されており、これらから抽出した学習用語により、頻度順一覧表を作成した。そして、平成 29 年版『小学校学習指導要領』・『小学校学習指導要領解説国語編』・『中学校学習指導要領』・『中学校学習指導要領解説国語編』は新たな方針により作成されたものであるため、平成 29 年版『学習指導要領』等だけで抽出した学習用語により、別の頻度順一覧表を作成した。

表 3 作成した頻度順一覧表

	対象文献
一覧表 1	平成 27 年版小学校国語科全教科書、平成 20 年版『小学校学習指導要領』・『小学校学習指導要領解説国語編』
一覧表 2	平成 28 年版中学校国語科全教科書、平成 20 年版『中学校学習指導要領』・『中学校学習指導要領解説国語編』
一覧表 3	平成 29 年版『小学校学習指導要領』・『小学校学習指導要領解説国語編』・
一覧表 4	平成 29 年版『中学校学習指導要領』・『中学校学習指導要領解説国語編』

## (2) 学習用語の 132 語の選定と解説

「表 3」の「一覧表 1～4」と『小学校子どもが生きる国語科学習用語（2013, 東洋館出版社）』で選定した学習用語を参考に研究代表者、研究分担者及び研究協力者で選定したものが「表 4」である。国語学習に重要度が高い学習用語は 2013 年のものと大幅に変化したということはなく、平成 29 年版『学習指導要領』で国語科に新設された「情報の扱い方」に係るものが主に加わった。なお 2013 年に選定された学習用語も平成 29 年版『学習指導要領』に従って修正している。

新たに加えられてものは、「情報」の「8 理由・事例」「9 原因・結果」「10 具体・抽象」「11 比較」「12 分類」「13 批評」「14 相違」「15 類似」「16 構造」「17 共有」、「話す・聞く」の「10 合意形成」、「書く」の「9 引用・出典」、「読むこと（説明文）」の「3 論理」及び「話し合いの方法」の「8 ワールドカフェ」「9 ファシリテーション・グラフィック」である。

表 4 国語学習に重要度が高いとして選定した学習用語 132 語

分類	No	用語	分類	No	用語	分類	No	用語
言葉	1	五十音	言語文化	1	ことわざ	読むこと	1	題名
	2	主語・述語		2	慣用句		2	場面
	3	修飾語		3	故事成語		3	登場人物
	4	指示語		4	俳句		4	心情
	5	接続語		5	短歌		5	情景
	6	和語・漢語・外来語		6	古文		6	人物像
	7	敬語		7	漢文・漢詩		7	設定
	8	複合語		8	落語		8	山場
	9	擬音語・擬態語		9	能・狂言		9	会話文・地の文
	10	反復	1	話題	10		象徴	
	11	倒置法	2	身ぶり	11		伏線	
	12	比喩	3	言葉づかい	12		主題	
	13	擬人法	4	間	13		連	
	14	仮名	5	調子	14		作者	
	15	漢字	6	質問	15		語り手	
	16	音読み・訓読み	7	司会	16		視点	
	17	画数・筆順	8	議題	17		あらすじ	
	18	部首	9	提案	18		音読	
	19	送り仮名	10	合意形成	19		朗読	
	20	かぎ・かっこ	1	題材	20		黙読	
	21	句読点	2	材料	21		暗唱	
	22	熟語	3	書き出し	1	感想・感想文		
	23	文・文章	4	文末	2	観察・観察文		
	24	口語・文語	5	見出し	3	意見・意見文		
情報	1	順序	書く	6	常体・敬体	文章の種類	4	説明・説明文
	2	中心		7	箇条書き		5	報告・報告文
	3	構成		8	取材		6	記録・記録文
	4	展開		9	引用・出典(2語)		7	推薦・推薦文
	5	はじめ・中・終わり		10	編集		8	紹介・紹介文
	6	序論・本論・結論		11	推敲		9	手紙
	7	結論		12	アドバイス		10	物語
	8	理由・事例(2語)		13	清書		11	詩
	9	原因・結果(2語)		1	事例		12	日記
	10	具体・抽象(2語)		2	根拠		13	伝記
	11	比較		3	論理		14	随筆
	12	分類		4	キーワード		15	メモ
	13	批評		5	対比		話し合いの方法	1
	14	相違	6	筆者	2			インタビュー
	15	類似	7	段落	3			話し合い
	16	構造	8	要点	4	討論		
	17	共有	9	要旨	5	パネルディスカッション		
		10	要約	6	プレゼンテーション			
				7	ポスターセッション			
				8	ワールドカフェ			
				9	ファシリテーション・グラフィック			

なお、「表 4」では、学習用語を、平成 29 年版学習指導要領の国語の分類に合わせて、A(話すこと・聞くこと) B(書くこと) C1(読むこと・文学的文章) C2(読むこと・説明的文章) D1(言語文化) D2(言葉の特徴や使い方) E(情報の扱い方)に加えて、「文章の種類」と「話し合いの方法」の 9 分類とした。

(3) 代表的な学習用語 15 個の選定と、その学習用語を有効に使う 15 の授業実践

実践した学習用語は、「表 5」に示すが、基本的に必要なものと平成 29 年版学習指導要領で注目されているものを選定した。新設された「情報の扱い方」と注目度の高い「読むこと(文学)」の実践はそれぞれ 4 実践行い、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」及び「読むこと(説明文)」の実践においても、「情報の扱い方」につながるような学習用語を扱った。そして、「言語文化」と「言葉の特徴や使い方」については、「知識及び技能」の中でも、基礎基本ということで扱わなかった。

研究協力者に授業実践を依頼したが、実践者は、学習者が学習用語を意識することでより学習が促進される実践を行った。学習用語を意識することで、学習者は何を学習するのか、ぶれることなく活発に学習でき、指導者も、活動はあるが学習はないような授業にならず、学習の

目的意識が明確になったとの感想が多かった。

表5 授業実践の学習用語・実践名・教材名

学習用語	学習用語を用いた実践名	教材名
順序	なるぞ たんぼぼ はかせ 事柄から時間の順序へ	小学2年生「たんぼぼ」(東京書籍)・「たんぼぼのちえ」(光村図書)
理由・事例	ゆめのロボットを考えよう 理由や事例を述べることで、説得力のある文章を作る	小学4年生「『ゆめのロボット』を作る」(東京書籍)
比較・分類	三十年後、世の中はどうなってほしいか? 意見を聞き合い、比較や分類をして考えを深めよう	小学6年生「未来がよりよくあるために」(光村図書)
具体・抽象	事柄を「つなぐ」視点 事柄を「つなぐ」ことについて考える	中学3年生「フロン使用の物語」(三省堂)・「『文殊の知恵』の時代」(三省堂)
メモ	メモリアルな「メモ」の学習 自分にぴったりのメモのフォーマットを作ろう	小学4年生「ウミガメの命をつなぐ」(教育出版)・「ぞろぞろ」(教育出版)
合意形成	「住み続けられるまちづくり」のプランを提案しよう 合意形成に向けてのプロセスを学ぶ	中学3年生 自主教材
引用・出典	情報を活用して、説得力のある意見を発信しよう 資料を引用して意見文を書く	小学6年生 自主教材
随筆	心の風景を言葉にする 詩を入口として随筆の書き手となる	中学3年生「最初の質問」(学校図書)
キーワード	この段落は、いらぬ? 目的に応じたキーワードを探し、読み解こう	小学4年生「アメンボはにん者か」(学校図書)
根拠・理由	文章と対話して読もう 主張をつくる「根拠」と「理由」の関係を探る	小学5年生「生き物は円柱形」(光村図書)
論理	「見る」「見える」とは、どういうことか 二つの文章を比較し、筆者の伝えたいことと「論理」の関係を探る	中学1年生「『みえる』ということ」(学校図書)・「ちょっと立ち止まって」(光村図書)
場面・登場人物	ふたりはどんな気持ちでいるのかな 場面を区切り登場人物の気持ちを読む	小学1年生「お手紙」(教育出版)
視点・語り手	ごんの視点・兵十の視点・語り手の視点に気付こう 登場人物の視点・語り手の視点	小学4年生「ごんぎつね」(教育出版) 絵本「ごんぎつね」(偕成社)
人物像	大造じいさん、別の名は 登場人物の人物像を読む	小学5年生「大造じいさんとがん」(教育出版)
象徴	“あるもの”のもつ「意味」を捉える / “共有される”事柄はなにか “場所”のもつ「意味」や「働き」はどのようなものか	中学2年生「小さな手袋」(三省堂)

#### (4) 成果と課題

2013年の『小学校子どもが生きる国語科学習用語(東洋館出版社)』では、小学校の学習用語のみだったが、本研究では中学校の教科書と学習指導要領を調査し、授業実践をすることができた。中学校特有の学習用語はそれほど多くなく、例えば「合意形成」は国語では中学校だが、特別活動では小学校の学習指導要領に登場しており、国語でも将来的に小学校の学習指導要領にも登場することも考えられ、学習用語の段階性はそれほど明確ではない。学習用語の調査範囲は、広域にわたったので、再度原資料に当たり、学習用語の頻度数と重要性の関係などを検討し、全国大学国語教育学会等で成果を発表したい。

学習用語の用いた実践と学習用語解説に関しては、『学習用語で深まる国語の授業』(2019, 東洋館出版社)にその成果が反映されて、多くの国語指導者に支持されているが、教育現場に役立つ学習用語の用いた実践と学習用語解説をより改善していきたい。

#### 5. 主な発表論文等

〔学会発表〕(計 1件)

工藤哲夫・中村和弘・片山守道、国語科における学習用語のあり方、全国大学国語教育学会、2017年

〔図書〕(計 1件)

工藤 哲夫・中村 和弘・片山 守道・大塚 健太郎・廣瀬 修也・成家 雅史・渡邊 裕・福田 淳佑・渡邊 光輝・森頭子・今村 行・愛甲 修子・荻野 聡、東洋館出版、小学校・中学校 学習用

## 6. 研究組織

### (1) 研究分担者

研究分担者氏名：中村 和弘

ローマ字氏名：(NAKAMURA, kazuhiro)

所属研究機関名：東京学芸大学

部局名：教育学部

職名：准教授

研究者番号(8桁)：50511185

### (2) 研究協力者

研究協力者氏名：片山 守道

ローマ字氏名：(KATAYAMA, morimiti)

研究協力者氏名：大塚健太郎

ローマ字氏名：(OOTSUKA, kentarou)

研究協力者氏名：廣瀬 修也

ローマ字氏名：(HIROSE, shuuya)

研究協力者氏名：成家 雅史

ローマ字氏名：(NARIYA, masasi)

研究協力者氏名：渡邊 裕

ローマ字氏名：(WATANABE, hiroshi)

研究協力者氏名：福田 淳佑

ローマ字氏名：(HUKUDA, junsuke)

研究協力者氏名：渡邊 光輝

ローマ字氏名：(WATANABE, mituki)

研究協力者氏名：森 顕子

ローマ字氏名：(MORI, akiko)

研究協力者氏名：今井 行

ローマ字氏名：(IMAI, susumu)

研究協力者氏名：愛甲 修子

ローマ字氏名：(AIKOU, shuuko)

研究協力者氏名：荻野 聡

ローマ字氏名：(OGINO, satosi)

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。